

# 令和元年度事業報告

## 1 普及啓発事業

### (1) 賛助会員

がん征圧運動に協力していただく賛助会員(維持会員)の拡大に努めた。個人会員は279人、法人会員は104件であった。

### (2) がん征圧月間運動

日本対がん協会と日本医師会は9月を「がん征圧月間」としており、また、北海道は9・10月を「北海道がん征圧・がん検診受診促進月間」としている。当協会は両者と協力し、9・10月を重点的にがん征圧運動を行っている。具体的な取組みとしては

- ア 「北海道がん征圧・がん検診受診促進月間」行事として、北海道庁ロビーにおいて「がん予防普及パネル展」を開催した。
- イ がん検診事業の拡大をはかるため、地域団体と協力して街頭PRを行った。
- ウ 広報資料・がん関係資料を報道関係者に積極的に提供し、新聞・テレビ・ラジオ等メディアを通じてがん征圧月間のPRを行った。
- エ 北海道医師会と連携し、がん予防ポスターを道内の医療機関及び市町村へ配付した。また、官公庁に協力を得て、がん検診受診促進のための懸垂幕・看板を提示してもらい、PRを行った。

### (3) がん予防道民大会

がんに関する正しい知識を広く道民に普及することにより、がん予防活動の実践とがん検診事業の進展を図ることを目的として、昭和40年以来、がん征圧月間の中心行事として全道で開催している。

今年度は、北海道・滝川市・北海道健康づくり財団と共催し、数多くの関係団体の協賛・後援のもと、10月11日(金)、たきかわ文化センターにおいて次のとおり開催した。

本大会には、全道から850名が参加した。また、健康教育の一環として地元高校生の参加もあり、盛会裡に終了した。

大会の主な行事

#### ○ がん予防功労者表彰

団体 砂川市、士別市

個人 柴田直美氏

#### ○ 優良がん対策推進企業表彰

株式会社東海日動パートナーズ北海道、北海道コカ・コーラボトリング株式会社

#### ○ 特別講演

「予防できるがんもあることを知るそして新しい時代のがん治療についても知ろう」

演者：国立病院機構北海道がんセンター 院長 加藤秀則氏

○ 健康講演

「25歳でがんになって Think Big～がんが教えてくれたこと～」

演 者 NPO 法人がんノート代表理事 岸田 徹 氏

(4) 創立 90 周年記念事業

創立 90 周年を記念して、これからの協会の将来展望並びにがん・生活習慣病の正しい知識や検(健)診の重要性について、広く道民に普及・啓発を図ることを目的に 7 月 28 日(日)、ホテルポールスター札幌においてフォーラムを開催し、全道から医療関係者及び一般市民 350 名が参加した。

○ 記念講演

「がん医療 最前線」

講 師 : 国立研究開発機構 国立がん研究センター 理事長 中釜 斉 氏

座 長 : 北海道大学大学院 医学研究院 教 授 坂本 直哉 氏

○ パネルディスカッション

「これからのがん・生活習慣病予防の展望」

パネリスト : 公益財団法人日本対がん協会 会 長 垣添 忠生 氏

北海道保健福祉部健康安全局 局 長 竹縄 維章 氏

国立病院機構北海道がんセンター 院 長 加藤 秀則 氏

北海道大学大学院 医学研究院 教 授 玉腰 暁子 氏

公益財団法人北海道対がん協会札幌がん検診センター

所 長 河原崎 暢 氏

コーディネーター : 医療キャスター

松本 裕子 氏

(5) 啓発セミナー

ア がん予防学級

一般市民を対象に、がんに関する正しい知識の普及を図るため、札幌及び旭川センターで開講し、延べ 109 人が受講した。

イ 北海道家族の健康をまもる講習会

北海道健康をまもる地域団体連合会、北海道食生活改善推進員協議会、北海道結核予防会と共催し、令和元年 7 月 4 日(木)～5 日(金)の 2 日間、美瑛町国立大雪青少年交流の家において、全道から参加した 83 名の受講者にごがん・結核等に関する講習会を開催した。

ウ 講習会等

地域住民や保健推進員などを対象に、15 回、656 名へ講演・講習会等を行った。

(6) 事業年報

事業年報については昭和 45 年から毎年発行しており、平成 30 年度実績を収録したものを発行した。

(7) その他情報発信

ア 機関誌「しらかば」の発刊

北海道対がん協会の機関誌である「しらかば」を発刊した。

イ ホームページの充実

近年、インターネットが年齢を問わず活発に利用されていることから、ホームページでの情報提供に努めた。

ウ メディアの活用

全道版の雑誌やFMラジオなど、メディアを通じて、がん検診のPRを行った。

(8) 普及啓発の推進

ア 地区組織との連携

がんに関する正しい知識の普及、及びがん検診事業の拡大を図るため、各種団体・地区組織と連携を行った。

イ 企業との連携

ピンクリボン運動等、がん征圧の趣旨に賛同する企業と連携し、工場見学と検診実施を組み合わせたツアーを企画する等、がんの知識の普及と検診の拡大を図った。また、事業所等の職員向けの健康教育にも積極的に講師を派遣した。

ウ ボランティア団体への支援

ピンクリボン運動等の啓発活動に取り組んでいる市民団体を支援し、その団体の協力のもと検診の拡大を図った。

エ 健康まつり等への参加

各市町村が行う健康まつり等に協力し、参加者へ啓発活動を実施した。

オ パンフレット、リーフレット、ポスター等

パンフレット、リーフレット、ポスター等を作成配布し、がんに関する正しい知識の普及及びがん検診事業の拡大を図った。

(9) 各種がん・生活習慣病対策会議

がん及び生活習慣病検(健)診事業を拡大し受診率の向上を図るため、次のとおり会議を開催した。

ア がん及び生活習慣病対策推進会議

次年度の事業計画を円滑に推進するため、北海道と共催で、保健所・市町村・事業所・関係者を対象に「がん対策推進会議」を次のとおり開催した。

○ 開催日程及び場所

令和元年 10 月 16 日 (水)	ホテルポールスター札幌
令和元年 10 月 24 日 (木)	旭川大雪クリスタルホール
令和元年 10 月 28 日 (月)	帯広市保健福祉センター
令和元年 10 月 29 日 (火)	釧路がん検診センター

○ 報告事項

① 北海道からの報告

・北海道におけるがんと生活習慣病の状況について

② 北海道対がん協会からの報告

・令和2年度検診の実施計画について

・がん検診の精度管理について

・HPV・乳房超音波の実施体制について

・行政の取組紹介(江別市の事例) ※札幌会場以外

○ 講演

札幌会場:「乳がん治療最前線から紐解く乳がん検診の今後の方向性」

国立病院機構北海道がんセンター 副院長 高橋 将人 氏

行政の取組紹介 江別市の事例

「総合予約システムを活用した今後の検(健)診のあり方について」

江別市健康福祉部保健センター 管理係長 眞鍋 慎治 氏

旭川会場:「検診で見つかる肺がん」

旭川医科大学病院呼吸器センター 教授 大崎 能伸 氏

帯広会場:「がんの最新情報」

(公財)北海道対がん協会釧路がん検診センター 所長 松浦 邦彦

釧路会場:「がんの最新情報」

(公財)北海道対がん協会釧路がん検診センター 所長 松浦 邦彦

イ 日本対がん協会 東北・北海道ブロック会議

東北6県支部が集い、事業状況等について情報交換を行った。

○ 開催日程及び場所

令和元年11月22日(金) 山形県山形市

ウ 各センター所在地と北海道対がん協会とのがん検診打合せ会議

がん検診を、円滑かつ効率的に実施するため、各センターが所在する札幌市、旭川市、釧路市と打ち合わせ会議を開催し、協議した。

(10) 受診率の向上

ア 受診率向上委員会の充実強化

受診勧奨方法の検討等、受診率向上策を検討・実施した。

イ 未受診者への検診勧奨

チラシ約52万枚、ハガキ約3万3千枚を作成、市町村へ提供し、未受診者への働きかけを行った。

ウ 受診勧奨事業者との業務提携

① 株式会社ATMとの業務提携

江別市内にコールセンターを設け、市町村検(健)診の予約受付業務を代行する(株)ATM(本社:東京)と業務提携を行い、新たな市町村からの検(健)診受託及び

検(健)診受診率向上に向けた検討を行った。

② 株式会社キャンサーズキャンとの業務提携

市町村毎に検診未受診者の傾向等についてデータ分析し、個々に有効な文書等を発送する業務により、他都府県市町村の受診率向上対策に実績のある、(株)キャンサーズキャン(本社:東京)と業務提携を行い、受託市町村の受診率向上及び新規受託に向けての検討を行った。

エ 日曜検診の実施

3検診センターで平日受診できない人などを対象に、がん検診と各種検(健)診を17日間実施し延べ2,387人が受診した。

(11) 行政との連携強化

受診率の向上に向けて、北海道をはじめ市町村と連携強化し推進した。

(12) センター検診の充実

ア センター利用のPR

札幌市・旭川市・釧路市内の町内会へ積極的に検診をPRし、センター利用の受診拡大を図った。

イ 人間ドックの受診拡大

標準コースにCT等を追加した、プレミアムコースを積極的にPRし、受診勧奨を行った。

ウ ホームページからの予約

インターネット予約を推進し、若い方々が予約しやすい環境づくりに努めた。

(13) 検診設備(機器)の充実

ア 電子内視鏡設備

北海道の補助により、胃がん検診の精度向上のため、釧路がん検診センターに電子内視鏡を整備した。

イ 胃部集検装置

北海道の補助により、胃がん検診の精度向上のため、札幌がん検診センターに胃部集検装置を整備した。

ウ コンピューターシステムサーバー

総合健診基幹システムのサーバーを更新した。

エ 婦人科検診車

婦人科検診車を購入し、道内巡回検診事業の強化を行った。

(14) その他

ア 北海道がん対策基金の事務局運営

当会は事務局として基金の管理・運営を行っている。令和元年度末の寄附額

26,984,838 円であった。また、道内でがんに関する活動を行う 6 団体へ 1,760,000 円を助成した。

#### イ がん電話相談事業

専任の相談員を置き「がん電話相談」事業を実施しているが、令和元年度の相談件数は、53 件(札幌市内 43 件、他市町村 10 件)であった。これを性別で見ると、男性 19 人、女性 34 人、部位別では、肺、大腸、乳、膵がんの順であった。

#### ウ 禁煙運動への参加

北海道禁煙週間実行委員会に参加して、WHOが提唱する世界禁煙デーを中心とする行事に参加協力した。

#### エ 札幌市がん対策普及啓発キャンペーン実行委員会

当会が事務局を担うとともに、実行委員として活動した。

## 2 調査研究事業

### (1) 学会研修

日本消化器がん検診学会北海道支部の主催する医師・放射線技師・保健師等の合同学会に参加・協力した。

また、職員の資質の向上をはかるため、日本臨床細胞学会・日本消化器がん検診学会北海道地方会・北海道公衆衛生学会等に派遣し、5 学会で延べ 11 人が発表した。

### (2) 厚生労働省「がん対策のための戦略研究事業」

「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験」の研究団体として参加。

### (3) 日本医療研究機構(AMED)「確信的がん医療実用化研究事業」

「血液バイオマーカーアイソフォームによる膵がん検診の臨床研究実施に向けたフォージビリティ研究」の研究団体として参加した。

### (4) 「北海道広域でのHPV自己採取に関する研究」

(株)ジェネティクラボを共同研究者として、自己採取法による HPV-DNA 検査の有効性の検証を行った。

## 3 会議開催状況

### (1) 理事会

第1回理事会 令和元年 6 月 4 日(火) 場所 会議室

第2回理事会 令和元年 10 月 31 日(木) 書面による

第3回理事会 令和 2 年 3 月 10 日(火) 書面による

### (2) 評議員会

第1回評議員会 令和元年 6 月 24 日(月) 場所 会議室

第2回評議員会 令和元年 10 月 18 日(水) 書面による

(3) 四役会

第1回四役会	令和元年 5月 27日(月)	場所	役員室
第2回四役会	令和元年 8月 29日(木)	場所	役員室
第3回四役会	令和元年 12月 12日(木)	場所	役員室
第4回四役会	令和2年 2月 26日(水)	場所	役員室